



TOCHIGI
ARCHITECT
OFFICE
ASSOCIATION
BULLETIN



社団法人栃木県建築士事務所協会会報

2009
8
No.89

TOCHIGI ARCHITECT OFFICE ASSOCIATION BULLETIN

2009/8 No.89 目次

建築士事務所憲章	2
雑感 (社)栃木県建築士事務所協会副会長 耐震診断業務委員長 佐治 則昭	3
業界の動き 栃木県住宅耐震推進協議会について	
住宅耐震推進協議会 運営委員長 夏目 公彦	4
委員会報告 「委員会活動について」	
総務・企画委員長 田村 哲男	5
経営委員会活動について	
経営委員長 深津 喜一	5
業務運営委員会活動の抱負	
業務運営委員長 小林 基	6
教育・情報委員会活動について	
教育・情報委員長 渡辺 有規	6
法律シリーズ No.49 「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保に関する法律」について	
弁護士法人佐藤貞夫法律事務所 弁護士 杉田 明子	7~8
税務シリーズ No.15 平成21年度税制改正	
久保井会計事務所 久保井一臣	9~11
コラム 東京タワー生誕50周年	
広報委員 中村 清隆	12
建物のセキュリティ設計について	
広報委員 大高 宣光	13~14
正会員・賛助会員入会案内	15
正会員/建築設計 大高、(株)スペースショップ一級建築士事務所、(株)NASU設計	
協賛会員/東栄設備工業(株)、中島塗装(株)	
協会日誌 2009.4~2009.6	16~18
建賠保険等調査専門委員会が設置されました	
有限会社 日事連サービス 専務取締役 中川 孝昭	19~20

表紙紹介

湯の郷 湯西川観光センター

株式会社 荒井設計



第17回AP展会長賞

本建物は野岩鉄道湯西川温泉駅と道の駅を一体的に整備したものです。建物は湯西川温泉郷の玄関口に位置することから、土壁風の外壁と木調ルーバーなどにより周囲の自然景観と調和し「平家の里」を感じさせる外観としました。駅舎+道の駅の機能に加えて温泉や足湯・岩盤浴等を整備し、利用者が「やすらぎ」を感じられる施設としました。また冬の雪・寒さ対策として、温泉を利用した床暖房やロードヒーターを設置し省エネ化とCO₂削減を図りました。

コラム

建物のセキュリティ設計について

広報委員 大高 宣光

ウイルス対策からBCM・BCP

近年 オフィスのセキュリティについては、インターネットの普及とともに、パソコンのファイル管理やオフィス内のLAN環境の安全性について、クライアントの関心が高くなっていますし、既に皆さんも会社や自宅のパソコンにウイルス対策ソフトを使用されている事と思います。

また他方で、最近話題になっている言葉に「事業継続マネジメント(Business Continuity Management(BCM))」、更に「事業継続計画(BCP)」というのがあります。これは事件、事故、災害時に於いて、速やかに事業再開につなげられる事を目的としたマネジメント手法ですが、クライアントのニーズから建物のセキュリティを考える時、設計者が理解していなくてはならない大切な考え方です。

建築設計 とセキュリティ

設計者の立場からこのセキュリティというテーマに取り組む時、まず理解していなければならない事は、完成後の実際の使われ方になります。どの部屋に何が置かれ、実際に入室する人はどのレベルの権限を持った人なのか、クライアントのBCPに基づいて「物」や「人」を守るためのゾーニング計画から始める事になります。ここで大切な事は、多くのセキュリティコンサルタントは建物設計のプロではありませんし、ましてや建築材料について詳しい人は少ないのが現状です。例えば、宝石店で錠も警報装置も万全だったのに、衝撃にもろい材料の外壁を破られて侵入されてしまった例等はこの為かもしれません。

セキュリティ設計の基本項目

建物のセキュリティ設計を考える時、基本となる次の五つの項目を押さえる必要があります。

一つ目は導線計画と平面・断面計画です。これは外構設計から、平面、断面計画まで含めたゾーニングです。一般的なセキュリティ設計では警戒レベルが緩いレベル1から最も警戒レベルが高いレベル3までの三つのゾーニングに分けて設計し、レベル3の部屋がこのゾーニングの中で最も安全で外から遠い位置に配置されなければなりません。

二つ目は建築材料の選定です。多くの場合重要なセキュリティ区画は、防火区画と重なる事が多いのですが、たとえ耐火性能が高くても、簡単にハンマーやカッターで破られる建築材料では、セキュリティ区画としては相応しくありません。これは建具の選定についても同様です。

三つ目は錠の選定です。建築設計業務に携わっていても、意外とこの分野の知識を持つ設計者が少ないのが現状です。一昔前ピッキングで錠の性能については大きな社会問題となりましたが、錠の性能を語る場合、私是对ピッキング性能は本来錠の性能を語る以前の問題だと思っています。

更に、ICカードや指紋認証など、電気的なコントロールを必要とする錠については、どの様な場合にどの様な信号を出せるのかが、本来の錠の強度や機能と共に、建物完成後の管理運営について重要な意味を持つ事になります。つまり、錠の施錠錠だけの動作接点しか持たない場合と、

空錠状態での扉の開閉を検知する物、更にはデッドボルトの入・出を検知する物、更にこれを錠側で検知するのか、ラッチ側で検知するのかで、防犯能力と事件・事故発生時の対処が変わってきます。

四つ目は電気錠を制御するコントローラーの機能と性能です。たとえこれまでの三つのポイントを押さえた設計がなされていても、そこに使用されるコントローラーの機能や性能が未熟では全く意味のない設計になってしまいます。

クライアントにもよく誤解されている例ですが、「我社は最新のICカード錠システムを入れたのでセキュリティは万全です」とお聞きする事があります。本当でしょうか？昔の鍵の管理であれば、鍵のコピーが作られないように社長がしっかり管理さえしていれば、世の中に解錠できる鍵は正副二、三本の鍵しか無かったはずですが、しかしICカード錠にしてしまったばかりに、解けられる鍵の数は社員数と同じになってしまったのです。それどころか、出入りする関係会社や各種の配達に関わる人にまでカードを配布せざるを得ない場合があり、この場合鍵をばらまいたと同じになってしまいます。

このため、不測の事態を考慮した電気錠システムの機能検討が大変重要になります。

五つ目は運用管理体制です。電気錠の機能とコントローラーの機能がマッチしたところで、次はコントローラーの機能である許可登録の管理から再発行許可基準、更には想定される緊急時の対応について、クライアントの運用能力を見極めた仕様選定が重要になります。

この見極めで難しい事は、非常にレベルが高い製品を設置してしまったばかりに、運用が大変複雑になり、三年後には使われなくなってしまったな

どの例が大変多く発生している事に象徴されています。

カードやコントローラーの機能の選定には、クライアントの運用体制まで含めた詳細なコンサルティングが不可欠です。

BCMから見たセキュリティ設計

ここまでは防犯を主眼とした設計について書きましたが、実は企業における窃盗・漏洩などの犯罪の殆どは「社員及び関係者」によるものである事が統計上明らかになっています。つまり犯人は外からやってくるものではありません。

この場合事件・事故の発生時に如何に早く犯人を特定できるかはもちろんのことですが、関係も無いのに疑われた人にとっては、会社との関係に深い溝を残す事にもなってしまいます。このため、多くの善良な社員と関係者を疑わずに済む登録・運用管理体制の構築が、セキュリティ設計に当たって重要なテーマだと思います。

更にBCMの観点から、建築設計者に要求される何よりも重要なセキュリティ設計のチェック項目は、建物を支えるインフラの安全設計です。以前に、ある地方自治体のLGWAN(Local Government Wide Area Network)と住基ネットのサーバーームの調査を行った時の事ですが、予備エンジンが庁舎の隣を流れる河川の氾濫想定水位より下の位置に当たる地面に設置されていました。順法設計は当たり前ですが、どんなに優れたセキュリティ設計がなされ、運用がしっかりしていても、停電時の水害で電源設備が水没してしまっただけでは何の役にも立ちません。セキュリティは最も弱い所から崩れるものです。